

Slovenia Monthly August 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年9月18日



～8月の主なポイント～

- 政治：** 大統領選挙の投票日、10月22日で決定。パホル大統領ほか3名が出馬表明。
- 経済：** 住友ゴム工業、スロベニアにおける医療用精密ゴム部品の工場新設を発表。
農業・食品見本市「Agra」が開催、36か国から1820企業・団体が参加。
- 社会：** 柔道世界選手権、女子63kg級トウルストニャク選手、男子90kg級ジカンク選手が銀メダル。
欧州クライミング選手権、女子総合、で金メダル獲得。

政治

【内政】

●大統領選挙の投票日は、10月22日【11日】

11日、ブルグレス国民議会議長は次期大統領選挙を10月22日に実施する旨を発表した。一回目の投票で過半数獲得候補がない場合は、11月12日（日）に獲得票上位2者による決選投票を実施。なお、現時点で大統領選挙への立候補を表明しているのは、ボルト・パホル（Mr. Borut Pahor）現大統領（無所属）、リュドミラ・ノヴァク（Ms. Ljudmila Novak）新スロベニア党（NSi）党首、ミラン・ヤズベツ（Mr. Milan Jazbec）駐マケドニア大使（無所属）、マリヤン・シャレツ（Mr. Marjan Sarec）カムニク市（Kamnik）市長（無所属）の4名。

●パホル大統領、スロベニアを歩く旅【8日】

8日、パホル大統領は、スロベニアを歩く旅で夏休みをスタートした。大統領は、スロベニア北東部、ハンガリー国境近くのゴリチュコ地域（Goričko）ホドシュ（Hodoš）市から南西の海岸沿いの町ピラン（Piran）まで、ゴレニスコ地域（Gorenjsko）やベラ・クライナ地域（Bela krajina）等を通りながら、一日約40km、8月14日まで合計240kmを歩く計算となる。今回の歩く旅の目的は、地域の人々と交流することである。（パホル大統領は、今年の大統領選挙に出馬を表明しているが、今回の旅が選挙キャンペーンであるかは

不明。）なお、5年前の前回の選挙キャンペーンでは、パホル大統領は、ブルーカラーの労働者とともに過ごし、肉屋、美容師、技術工、建設工、ショップ店員等、あらゆる仕事を試していた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●欧州全体主義体制における犠牲者追悼の日【23日】

23日、「欧州全体主義体制における犠牲者追悼の日」に際し、パホル大統領は、ツイッターでビデオメッセージを発信し、「スロベニアは、新たな全体主義に頼ることなしに、民主主義のもと国家が抱えるあらゆる課題を解決することができる。そのためには、いかなるヘイトスピーチも拒否することが重要である」と述べた。他方、ノヴァク新スロベニア党首は、共和党広場に新たに設置された「和解の碑」に献花し、

「スロベニア人は、ファシズム、ナチズム及び共産主義という3つの全体主義体制の犠牲者である。我々は、異なる価値観を持っているが、同じ国において平和に共存し発展していくためには、全ての犠牲者を追悼すべきである」とプレス声明を発表した。また、ブルグレス国民議会議長は、前日のステートメントで、「全体主義体制における犠牲者の記憶は、悲劇的な過去と未来の架け橋となるべきだ」と述べた。なお、メインの式典は、米国大使館前で執り行われ、ラナ米国大使館次席、ズヴェル国家和解研究所所長らが出席した。

●政府・与党は、防衛関連法案2件承認【31日】

31日、スロベニア政府・与党は、数か月に及ぶ連立与党内の議論の末、防衛関連法案2件を承認した。現国防法(Defence Act)は1994年に整備されて以来3回改正されたが、多くの規定が依然として時代遅れであり、更なる改正が望まれていた。同改正法案では、国防用語、国家防衛計画、危機対応手順、情報機関等の活動に関するルールブック等を更新する。また、国軍の即応能力にかかる組織規定や、警察及び他の政府機関との協調に関する責務の範囲等をより詳細に示している。また、兵役法案(Bill on Army Service)も策定された。同法案では、兵士の現行の任期付き雇用を維持するが、45歳以降、行政機関での就職権利、及び恒久雇用の機会を確保した。他方、国防省及び軍の労働組合等は、早期退職した場合はボーナスを払い戻さなければならないことに対し反対するとしている。

【外政】

●ツェラル首相、アドリア憲章国首脳会合に出席【2日】

2日、ツェラル首相は、モンテネグロのポドゴリツァで開催された、バルカン諸国のNATO加盟を支援するイニシアティブ、アドリア憲章の参加国首脳会合(Adriatic Charter summit)に出席し、EU及びNATOは西バルカン諸国に対して、機会を与え続けることが重要であると発言した。同首相は、アドリア憲章イニシアティブが、同地域において、持続可能な発展及び問題解決を通して、信頼及び相互理解を促進しており、ひいては国際的な安全と安定に大きく寄与していると述べ、スロベニアの同イニシアティブへの支持を表明した。また、同首相は、法の支配、人権及び民主主義の推進を呼びかけ、スロベニアにとって、同地域における安定は戦略的な重要性を意味する

ことから、加盟国に対して自身の経験と知見を共有することにより、EU及びNATO加盟への道のりにおいて、具体的な支援を施すことができた」と述べた。(当館注:同憲章加盟国は、アルバニア、クロアチア、マケドニア、米国、モンテネグロ、ボズニア・ヘルツェゴビナ)

●パホル大統領、米国連邦議会議員と会談【7日、15日】

7日、パホル大統領は、米国連邦議会のヌーンズ(Devin Nunes)下院議員及ロビオンド(Frank LoBiondo)下院議員と会談し、政治、経済及び軍事におけるEU米国間の戦略的パートナーシップの重要性等につき意見交換を行った。また、大統領府のステートメントによると、同会談で、パホル大統領と両議員は南東欧地域の地政学にも触れ、EU及びNATOの加盟国であるスロベニアが同地域における課題の平和的解決に向けて取り組んでいることへの認識を新たに示した。

15日、パホル大統領は、リュブリャナにて、米国連邦議会の上院議員一行を受入れ、二国間関係、NATOにおける協力、及び西バルカン情勢につき意見交換し、両者は、本会談が相互の信頼強化、二国間及び多国間課題における協力強化に資するとの認識で一致した。なお、本年は、米スロベニア外交関係25周年の年であり、4月にマケイン(John McCain)上院議員がスロベニアを訪問、7月にはワルシャワにてパホル大統領がトランプ大統領と会談している。

●農業貿易・経済協力閣僚級フォーラム開催【25日】

25日、「第12回農業貿易・経済協力閣僚級フォーラム」がブルドーにおいて開催され、共同議長を務めたジダン副首相兼農林食糧相及び韓長賦(Han Changfu)中国農業部長は、同フォーラムは成功であったとして評価した。ジダン農林食糧相は、協力強化、食品の安全・基準設定の重要性及び農業関係者の保護を盛り込んだ共同宣言を評価し、「スロベニアの『16+1』枠組み内での活動は、バイ及びマルチのレベルで成果を出しており、対中輸出は2016年に84%増加した」と述べた。これに対し、韓部長は、中国と中東欧諸国との協力には大きな潜在性があると述べ、食品の安全強化の重要性についても強調した。また、同部長は、農業分野における投資拡大の重要性を強調した。

同会合で採択された共同宣言は、参加国による持続可能な農業生産、加工及び科学研究の強化、

農業製品の貿易許可手続の迅速化、相互の投資・貿易強化、並びにビジネスイベントや見本市の開催を通じた協力強化を呼びかけた。次回の第13回フォーラムは、明年リトアニアで開催される。

●クレト・新国連常駐代表、事務総長に信任状奉呈【19日】

19日、クレト国連常駐代表は、グテーレス国連事務総長に信任状を奉呈し、国連改革の推進及び国連幹部ポストにおける男女平等の達成を支持するとの方針を表明した。クレト大使は、事務総長との意見交換の中で、特に国連幹部登用に際する男女平等の重要性につき同意したと述べ、スロベニア代表部は駐在武官を除き、6名の外交官全員が女性であると述べた。また、同大使は、国連改革の推進、SDGの効率的な履行、スロベニアの国連PKOへの参加継続、予防外交推進を約束したのに対し、事務総長は、スロベニアは信頼できる国連加盟国であるとして評価した。

●エリヤヴェツ外相、デンマーク外相と会談【29日】

29日、エリヤヴェツ外相は、外交関係樹立25周年を記念してスロベニア訪問中のサムエルセン・デンマーク外相と会談し、EUの将来、Brexit、西バルカン情勢及び難民問題に関し、両国が認識を共有していることを確認した。その他、両外相は二国間貿易が増加傾向にあることを歓迎しつつも、両国間のビジネス関係は更に拡大の余地があるとの認識で一致した。また、両者は対露外交につき対話継続が重要であるとの考えで一致し、サムエルセン外相はスロベニアは、ロシアとの歴史的繋がりがあることから、対話促進に重要な役割を果たし得ると述べた。

●スロベニア・クロアチア国境画定問題の動き【29日】

29日、エリヤヴェツ外相は、前週プレンコビッチ・クロアチア首相がウマグ及びサブドゥリアを訪問し、クロアチア人漁師に対し、最終裁定前の様にピラン湾の中間線までの領域で漁業を行うことに対する支持を表明したことに対し、「クロアチアが対話を通じて最終裁定を履行する意思がないことを示している」旨述べた。また、同外相は、「海上における最終裁定の履行は、迅速に実施されるべきであった。スロベニアは、最終裁定の履行開始をしなかったことで貴重な時間を失った。観光シーズンが終わりに近づくこともあり、クロアチアは最終裁定の内容に反し、意図的に挑発行為を行っている」として非難した。

経済

【マクロ経済・統計】

●VLM 航空、来週就航開始【1日】

1日、マリボル空港を運営する中国系「SHS Aviation」社が所有する航空会社、VLM エアラインズは、8月8日に、マリボル発スプリット(Split)、ドゥブロウニク(Dubrovnik)行きの期間限定、週一回のフライトを開始する旨発表した。使用する機体は、Fokker50、50人乗り。現時点では、8月29日までの就航予定。同航空会社は、今後イタリア(Ancona、Bari and Salerno)からクロアチア(Brač、Split and Zadar)、ギリシャ(Corfu、Preveza and Zakynthos)及びモンテネグロ(Podgorica and Tivat)への就航も予定している。



(Photo: Gregor Mlakar/STA)

●河川の水位低下に伴う水力発電量の減少【3日】

3日、スロベニア電力公社(HSE)の発表によると、暑く乾燥した天候は、スロベニアの発電能力にも影響を与えている。今年のソチャ(Soča)川及びドラバ(Drava)川の水位は長期的な平均値より低く、その2本の川にある水力発電所では、発電量が3分の1に減少している。その減少した発電量を賄うために、シヨシュタニ(TEŠ)火力発電所が発電量を増加した。なお、サバ(Sava)川での水位も例年より低下している。

●クルシュコ原子力発電所、安全性向上に向けた契約【5日】

5日、スロベニアの唯一の原子力発電所、クルシュコ原子力発電所(Krško、NEK)が、イタリアのAnsaldo Nucleare社と安全性向上計画のための新規契約を締結した。第3フェーズとなる本計画では、既存システムが機能停止した場合のための予備の

給水システム、及び崩壊熱を除去するためのシステム、緊急電機系統等を整備する。契約額は明らかにされていないが、NEK によると、全て自己資金で賄われる。なお、本安全性向上計画は、福島第一原子力発電所における2011年3月の災害で明確化された安全性への影響を考慮して、地震、洪水及び航空機の墜落等の非常事態の際の発電所の耐性を保障するためのものである。第1フェーズは2013年に完了、現在の第2フェーズでは、オペレーション・サポートセンターの改修及び予備の司令室建設が行われている。



(Photo: Rasto Božič/STA)

●若者の割合が減少【7日】

7日、統計局は、12日の国際青少年デーを前に発表した若者に関する統計によると、スロベニアにおける15歳から29歳までの若者が総人口に占める割合は、2016年には15.9%と2011年より2.4%減少し、EUの平均18.3%より低い。また、若者が親の家を出る年齢は、平均28.5歳(2015年)であり、EUの平均値26.1歳より遅い。比較して、親の家を出る年齢が早いのは、スウェーデン(19.7歳)、デンマーク(21.1歳)、フィンランド(21.9歳)等であった。よって、親の家に住む若者の割合は、80.4%であり、平均の65.9%より高かった。なお、若者の無期限雇用の割合は45.3%で、EU平均の48.3%を下回った。

スロベニアに迫る！ 64

リュブリャナのゴミ処理・リサイクル事業

スロベニアにおける廃棄物処理は、EU廃棄物処理指令(EU Waste Framework Directive)枠組のもと、スロベニア国内の環境保護法(Environmental Protection Act、2006)によって規制されています。2015年の統計によると、スロベニアでは年間520

万トンのゴミが排出され、そのうち58%が製造業、31%がサービス業、11%が家庭からのゴミです。

ゴミ収集から処分・加工処理までの廃棄物管理は、環境保護法に沿って各自自治体が行っています。リュブリャナ市は、2011年よりゴミ処理プロセス及び員インフラ整備の近代化を加速させた結果、現在、約60%のゴミを色分けした容器毎に分別した形で回収しています。黄色はプラスチック・金属及び複合材料の包装用、青色は紙段ボール用、緑色はガラス類用、茶色は生ゴミ用です。そして、黒色の容器は分別ができない一般ゴミ用に使用されています。また、リュブリャナ市には、スロベニア全体の3分の1のゴミを加工処理する大型ゴミ処理センター(RCERO Ljubljana)も整備され、これらは全てのゴミ回収・処理プロセスを担っているのがSnaga社です。

リュブリャナ市内でよく見かける地面に並んだ色とりどりの四角いボックスは、2008年、中心街のゴミ収集プロセスの効率化及び景観向上のためにSnaga社が設置したものです。市内60カ所に設置されたこれらのボックスは、公共用、商業施設用及び地元住民用のゴミ回収ポイントですが、公共用としては基本的に資源ゴミのみが利用可能であり、その他のゴミのボックスは、鍵がついており、登録した商業施設



や住民のみが利用できるようになっています。

2016年、EU加盟国28か国の首都におけるゴミ処理プログラ

ムを調査した欧州委員会は、ゴミ分別率55%を記録した等の理由から、リュブリャナ市をごみ処理にかかるベストプラクティス都市第1位と発表しました。なお、EUの平均分別率は19%です。また、欧州委員会は、スロベニアにおける分別率が高い背景には、旧ユーゴスラビア時代に、産業用の資材として分別のニーズが高かったことが挙げられると説明しています。



(出典:環境省、欧州委員会、Snaga社ホームページ)

●2017年上半期の輸出11.7%増加【9日】

9日、スロベニア統計局の発表によると、2017年上半期の輸出額は、139.5億ユーロ(前年同時期比11.7%増加)、輸入額は135.3億ユーロ(13.9%増加)を記録し、4151万ユーロの貿易黒字となった。上半期の主要貿易国は、輸出入ともにドイツとイタリア。3番目の貿易国は、輸出国はセルビア及びロシア、輸入国は中国及びトルコであった。なお、対EU加盟国輸出額は、全体の78%、輸入額は81%であり、EU加盟国との貿易額、EU加盟国以外との貿易額ともに、前年同時期比11%の増加が見られた。

カンタルティ経済開発・技術副大臣は、上半期の好成績は、スロベニアの輸出産業が世界経済の成長と同じ速度で進む力があり、依然としてスロベニアの経済成長を牽引していることの表れであるとした上で、多少加熱し過ぎている可能性もあると述べ、従業員不足等のリスクにつき警告した。また、スロベニア商工会議所(GZS)のイヴァンツ(Bojan Ivanc)主席アナリストは、輸入増加は、輸出品生産のための半製品や資材の購入増加、家計消費の増加及び建設業界の成長に起因していると分析している。

●深刻な干ばつ被害が発生【17日】

17日、ストウルニシヤ(Tanja Strniša)農林食糧副大臣は、本年最大の干ばつ被害を受けているスロベニア南東部のセミチ(Semič)及びチュルノメリ(Črnomelj)地域を視察し、同地域の干ばつ状況は、恐らく自然災害地域に指定されるレベルであろうと述べた。スロベニア南東部地域は、本年6月及び7月、例年の40%の降雨量しか記録しておらず、8月も干ばつが続いている。ワイン畑及びトウモロコシ畑に加えて、牧草地も被害を受けており、飼料不足。2003年にも深刻な干ばつが発生し、自然災害宣言が出されているが、ストウルニシヤ副大臣は、「今年の干ばつは、2003年よりも更に状況が深刻である可能性がある」と述べた。

●農業・食品見本市「Agra」開催【26日】

26日から31日にかけて、ゴルニャ・ラドゴナで開催された農業・食品見本市「Agra」に、36か国から1820企業・団体が参加した。また、同見本市において、中国と中東欧諸国16ヶ国の農業関係者間のビジネス会合が開催され、ジダン副首相兼農林食糧相は、中国市場への参入には複雑な手続きが伴うため、組織的な行動が必要であると述べた。同大臣は、「先ずは、中国を知り、中国人と友人となり、信頼関係を

築く必要があり、そうならばビジネスは順調に進むであろう」と述べた。また、同大臣は、「スロベニアでは、中国が主要な市場となっているハイテク産業が盛んであり、参入のチャンスは大いにあるが、知識なしで市場参入を果たすのは不可能である。高度な製品を製造して初めて、質の高い顧客を見つけるが出来る」と述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

【金融・企業関係】

●住友ゴム工業、スロベニアにおける医療用精密ゴム部品の工場新設を発表【1日】

1日、日本の住友ゴム工業は、約3400万ユーロを投資し、医療用包装材、医療用精密ゴム部品などを製造・販売するスイスの「ロンストロフ AG」社の子会社として当地に「ロンストロフ・メディカル・エラストマー(Lonstroff Medical Elastomer d.o.o.)」社を設置の上、新工場を建設することを決定した。新工場の稼働は2019年4月の予定で、約200名の雇用を創出する。これにより住友ゴム社による欧州における医療用精密ゴム部品の生産能力は約3倍(2016年比)となり、同事業のさらなる拡大に貢献することとなる。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費に

関する法案をめぐる動き【25日】

25日、ツェラル首相率いる政府代表団は、コペル港に位置する新たな側線の建設現場を訪れ、コペル＝ディヴァチャ間第2鉄道路線建設にかかる国民投票キャンペーンを開始した。コペル港と Dekani 停留所を結ぶ1.2kmの側線は、第2路線建設が完了するまでの間、コペル港における貨物の荷積み時間を短縮するもので、本年秋には完工予定である。ツェラル首相は同建設に関し、スロベニア企業（「Koletkor Koling」社、CGP社及びCPG社による合弁企業）が参加していることを歓迎し、また、9000人の雇用効果がある旨強調した。ガシュペルシッチ・インフラ大臣及びポチヴァルシェク・経済開発・技術大臣は、スロベニアの経済発展のためには、輸出を支える第2路線の建設は不可欠であると訴えた。（当館注：国民投票は、9月24日実施予定。）

社会・文化・スポーツ

● 欧州クライミング選手権、女子総合で金【19日】

8月18日から19日にミュンヘンで開催された、欧州クライミング選手権で18歳のヤーニャ・ガルンブレット（Janja Garnbret）選手が、女子総合で金メダルと、女子ボルダリング競技で銀メダルを獲得した。また、男子ボルダリング競技でアンジュ・ペハルツ（Anže Pešec）が銅メダルを獲得した。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

● 柔道世界選手権、男子で初の銀メダル【31日】

8月28日から9月3日までハンガリーのブダペストで開催された柔道世界選手権で、スロベニア人女性柔道家のティナ・トウルステニャク（Tina Trstenjak）選手（リオオリンピック金メダリスト）が63kg級で銀メダルを獲得した。また、男性柔道家のミハエル・ジガンク（Mihael Žgank）選手が90kg級で銀メダルを獲得した。これまで、世界選手権でメダルを獲得したスロベ

ニア人男性柔道家はおらず、ジガンク選手は初の快挙を成し遂げた。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

発見！スロベニア スロベニアの森

スロベニアの森は、国土の58%をカバーしており、EUでは、フィンランドとスウェーデンに次いで多い森林被覆率3番目です。その7割がブナ、モミ、オークなどですが、全部で70種類以上の木々がスロベニアには自生していると言われています。



そして、驚くことにスロベニアの森林地帯は、田舎のより遠隔地にある牧草地や牧草地を中心に、放棄された農地への広がりによって拡大しています。



スロベニアの森は都市から近くの森へのアクセスも良く、スロベニア人は週末などにレジャーで森を訪れ、ハイキングや養蜂、果物やハーブ、キノコ類の採取などを楽しむなど、スロベニア人にとって森はとても身近なものです。そのため、スロベニアの森林法では、民間所有の森林もこのようなレジャー活動のために、所有者以外も自由にアクセスできるよう定めています。

また、森林は、保護対象となることもあります。その典型例が、2017年7月UNESCO世界自然遺産に指定されたコチェウイェ(Kočevje)市南部に位置するクロカル(Krokar)

原生林保護地域、スネジュニツク山の南西に位置する森林保護区域のスネ



ジュニク-ジドロツレ(Snežnik-Ždročle)です。保護区域のため立ち入りは制限されていますが、「カルパティア山脈などの欧州各地のブナ原生林群」の一部として追加された同原生林は、ほとんど手付かずに残されたブナ林の多彩さが評価されました。近くまでお越しの際は、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(写真：伊藤真司氏撮影)

(参考：スロベニア森林サービス局ホームページ)

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第4回「サントーマス(Santomas)」



スロベニア沿岸の丘陵にある静かな村、シュマリエ村(Šmarje)。ここには、グラヴィナ(Glavina)家のブドウ園とオリーブ果樹園があります。オーナーの哲

学は、伝統への敬意、農業を営む上での誠実さ、そして環境に対する尊重です。

口頭伝承によると、商人がこの地域で広大な土地を購入したこときっかけで、シュマリエ村が発展していき、グラヴィナ家は、同村とともに発展していき、19世紀半ばにぶどうとオリーブの栽培を始めました。



サントーマスには約1万4千エーカーのブドウ園に広がっていて、赤のレフォシュク(Refošek)や白のイストリア・マルヴァジア(Istrian Malvazija)の栽培に専念しています。地元のイストリアの魚料理や肉料理と美しく調和したワインは地域でも最も人気が高いです。

また、サントーマスではヴィニフェラ・ブ

ドウ種の再生能力と謙虚さを深く認識しているため、最小限の手を加えるのみで、自然な方法で熟成しています。毎年秋には、その恵みがほのかな酸味とベルベットの柔らかさとのユニークな調和でもたらされます。



2005年には、総面積2400㎡を超える三階建ての新しいワインセラーを建築し、外観からは想像できないほど品質管理が行き届いた近代的な設備が整っています。

最上階には収穫したブドウを搾汁する機械や品質管理のための研究施設、試飲ルーム、2階には醗酵及び樽による貯蔵スペースがあり、1階は顧客のワインを保管できる場所になっています。

(出典・写真：Santomas ホームページ) HP：<http://www.santomas.si/en/>
Email：info@santomas.si

在スロベニア日本国大使館

電話:+386-1-200-8281 又は 8282、Fax:+386-1-251-1822、Email:info@s2.mofa.go.jp

Web:http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●NHK朝ドラ「カーネーション」再放送決定

1回目の放映時に視聴者からの反響が多かったため、再放送が決定。著名な日本のファッションデザイナーであるコシノ3姉妹の母親、小篠綾子氏の生涯を描いたドラマです。

○放映チャンネル:RTV SLO 2 ○再放送開始日:9月5日(火)～

○放映日時:平日(月～金)午後19:20～(曜日によって異なります。)

番組表:<http://4drtvslo.si/spored-4d/>

●テレビ岩手制作「夢見るピノキオ」放映開始(全100話)

美しい映像とともに東北地方・岩手県の様々な自然・文化・食・旅を紹介する番組です。

○放映チャンネル: RTV SLO 1(再放送:RTV SLO 2にて週末の土日に再放送あり)

○放映日時:平日(月～金)午後12:25より30分(1話ずつ放映)

番組表:<http://4drtvslo.si/spored-4d/>

●「濱野&RYU」スロベニア展

クラン市立美術館において、濱野年宏画伯により選考された美術団体 RYU に属するベテランから若手までの芸術家の作品約70点が展示されます。濱野画伯と美術団体 RYU は、これまで30年以上に亘って、日本とスロベニアとの様々な文化交流に貢献されてきました。

○会期:9月5日(火)～28日(月)

○場所:Gorenjski Muzej (住所:Glavni trg 4, Kranj)

主催:公益財団法人メセナかがわ・濱野年宏芸術交流協会、後援:在スロベニア日本国大使館

●世界マスターズ・レガッタ2017

9月初めにブレッド湖で開催される世界マスターズ・レガッタ2017に、日本からボートクラブ11チームが参加予定です。

○期間:9月6日(水)～10日(日)

○会場:ブレッド湖(湖の西側がゴール付近)

詳細は大会公式ホームページにて:<http://www.wmr2017.com/>

●U23女子バレーボール世界選手権

9月中旬に開催されるU23女子バレーボール世界選手権に日本代表チームが参戦します。

○日程:9月10日(日)~17日(日)

○場所:Stožice もしくは Tivoli sports hall

日程等はホームページにて:<http://u23.women.2017.volleyball.fivb.com/en/schedule>

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が多発しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城でも被害の発生がありました。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入らず、異変を感じたらすぐに確認してください。